



発行
美・下鴨・松ヶ崎
地域民報社

〒606-0824
下鴨東半木町
71-25
Tel 711-7048

新しい視点 展望しめす
しんぶん 赤旗
日干紙 3497円
日曜版 990円
京都民報 790円

しのびよる文化の貧困

— 府立植物園は大丈夫か

文化庁が国立博

物館・美術館に対し、4年後に、展示費用に対する入場料など自己収入割合が4割に満たなかつたら「再編」の対象とする、と伝えたと、という記事を見ました(3月9日付朝日新聞)。背景に財務省からの強い意向があったとのこと。

要するに、国の予算に頼るな、自分でしっかり稼げ、というこのようですが、そういえば、3年前にも国立科学博物館の運営費が



フタリスズカ

足らなくて、クラウドファンディングで募るという報道がありました。「文化を大切にすする国」であったはずなのに、いつのまにこんなになってしまったのでしょうか。

この記事を見て、すぐに気になったのは、「生きた植物の博物館」である京都府立植物園の将来です。万博に

合わせて、温室内を夜間照明して、高い入場料のイベントを民間業者にさせました。府

は、今年度からさらに広く、園地を利用したイベントの募集をかけています。「稼げる植物園」にするために、民間の「活力」を呼び込もう、という狙いが透けて見えます。イベント三昧の植物園になっていくのではないかと、とても心配です。

府立植物園には「植物生態園」(※)という素晴らしい森の展示施

設があります。山野草や野鳥のオアシスで、森を実感し、学ぶことができます。しかし、予算が削られ、「にぎわいイベント」に走ると、こういう施設から知らぬ間に荒れていくのではないかと危惧しています。

※この施設が作られた経緯を、裏面に載せておきます。

(葵・S)



川柳

四紅坊 (松ヶ崎)



ホルムズの関所破りを手伝えよ

— ドナルド

NATOよりもいい子大です日本です

— 早苗

第三五三回糺の森通信俳句会

二〇二六年三月二〇日

伊藤哲英選

万の数超えて死者在るガザに春

富美子

多治速の和泉の丘の梅日和

孝

一目を争ふ二人初碁会

恵

母の庭みごとに白き雪柳

貴子

目には目を戦争続く春来ても

哲英

☆次回 四月一七日(金)午後二時より

小畑さん宅にて

TEL〇七五七九一一五〇九七

兼題は「桜」(一句・雑詠四句、雑詠五句も可)